

第九十回帝國議會
衆議院

勞働關係調整法案委員會會議錄(速記)第二回

付託議案

勞働關係調整法案(政府提出)

昭和二十一年七月十八日(木曜日)
午前十時十九分開議

出席委員

委員長 逢澤 寛君

理事 江崎 眞澄君 理事 龍澤 脩作君
理事 竹田 儀一君 理事 古賀喜太郎君
理事 伊藤卯四郎君 理事 松岡 駒吉君
飯國壯三郎君 今井 はつ君
大内 一郎君 花月 純誠君
原 侑君 山田 善三君
山本 勝市君 川崎 秀二君
關谷 勝利君 長尾 達生君
山下 春江君 辻井民之助君
土井 直作君 永江 一夫君
安平 鹿一君 山下 榮二君
東 隆君 木下 榮君
原 國君 藤井 正男君
磯田 正則君 穂積 七郎君
久保 猛夫君 足田 敏男君
同日委員久保猛夫君辭任ニ付其ノ
補闕トシテ野本吉君ヲ議長ニ於
テ選定シタ

厚生事務官 富樫 總一君

本日ノ會議ニ付シタ議案

勞働關係調整法案(政府提出)

○逢澤委員長 是ヨリ開會致シマ

ス、先ヅ政府ノ説明ヲ求メマス
厚生大臣

○河合國務大臣 勞働關係調整法

案ノ概要ニ付キマシテ御説明申上
ゲマス、本法案ノ提案理由ニ付キ
マシテハ既ニ本會議ニ於テ申述ベ
ク通りデアリマシテ、本法ハ勞働
組合法ニ依リマシテ勞働組合ノ健
全ナル發達ヲ促進助成致シマスル
コトト相俟チマシテ、爭議權ニ最
小限度ノ制限ヲ加ヘテ公共ノ福祉
ヲ擁護致シマシテ一方勞働關係ノ
當事者間ニ不幸ニシテ意見ノ不
致ヲ招來致シマシテ場合ニ、之ヲ
公正ニ且ツ迅速ニ解決シテ産業ノ
平和ヲ維持シ、以テ日本再建ニ寄
與セントスルモノデアリマス
以下簡單ニ其ノ内容ヲ説明致シ
マスルト、先ヅ第一章總則ニ於キ
マシテハ、以上申述ベマシタ根本
精神ヲ明カニシタモノデアリマス
特ニ第二章及第三章等ニ於キマ
シテハ、爭議ハ當事者ノ自主的努
力ニ依リ解決スベキコトヲ本旨ト
致シテ居リマス、サウシテ政府ハ
其ノ自主的努力ニ援助ヲ與フルニ
止マルモノデアリコトヲ明カニシ

又第八章ニ於キマシテハ公益事業
ノ範圍ヲ必要ノ限度ニ止ムルコト
ヲ規定シテ居ル次第デアリマス

次ニ第二章、第三章及第四章
ニ於キマシテハ、勞働爭議ガ發生
シタル場合ニ於ケル斡旋、調停、
及ビ仲裁ニ關シ規定シタモノデア
リマスルガ、茲ニ斡旋ト申シマス
ノハ、斯ウ云フコトニ所謂學識經
驗ヲ有シテ居ル者ガ當事者間ヲ斡
旋シ、自主的ニ和解セシムル制度
デアリマス又調停ト申シマスルノ
ハ、調停委員會ガ當事者双方ノ意
見ヲ能ク聽キマシテ調停案ヲ作成
致シマシテ、之ヲ兩當事者ニ提示
シテ其ノ受諾ヲ勸告スルモノデア
リマス、第十八條第一項第三號乃
至第五號ノ所謂強制調停ノ場合ト
雖モ、調停案ノ受諾ヲ強制スルモ
ノデアリマセヌ、次ニ仲裁ト申
シマスルノハ勞働委員會ノ仲裁裁
定ニハ當事者ガ必ズ之ニ服サナケ
レバナラナイト云フ制度デアリマ
ス、隨ヒマシテ之ニ付キマシテハ
必ズ豫メ、當事者双方ニ於テ、之
ニ服スベキ旨ノ同意ヲ前提トシテ
居ル次第デアリマス、而シテ以上
三方法ノ何レノ、場合ニ於キマシ
テモ、當事者双方ノ合意ニ依リマ
シテ、本法ニ規定スル者以外ノ者
ノ斡旋、調停乃至仲裁ヲ受ケント
スルコトヲ妨ゲザルコトヲ致シテ

居リマス

第五章ハ爭議行為ノ制限禁止等

ニ關スル規定デアリマシテ、第一
ニ安全ヲ危クスル行為ヲ禁止、次
ニ公益ノ事業ニ付テハ所謂撓打爭
議ヲ禁止致シマシテ、國家、公衆
ニ於テ爭議行為發生ニ對處スル爲
ニ必要ナル餘裕ヲ與ヘ、且ツ此ノ
間輿論ノ批判ヲ十分ニ受ケ得ルヤ
ウニ致シマシテ、更ニ警察官吏、
消防職員、監獄勤務者、官吏等
ノ爭議行為ニ付テハ、其ノ職務ガ
國家的ニ不可缺ノ性質ノモノデア
ルコトニ鑑ミマシテ、之ヲ禁止ス
ルト共ニ、最後ニ使用者ハ勞働者
ニ對シテ爭議行為ヲナシタルノ故
ヲ以テ解雇其ノ他ノ不利益ナル取
扱ヲナシ得ザルコトヲ致シマシテ
以テ勞働者ニ付テ正當ナル爭議權
ヲ確保スルコトヲ致シテ居ル次第
デアリマス
最後ニ第六章ニ於キマシテハ必
要ナル費用ノ辨償ニ關シテ規定シ
テ居リマス
以上ガ本法案ノ概要デアリマス
ルガ、本法案自體ハ勞働爭議ノ豫
防解決ニ關スル技術的規定デアリ
又諸外國ノ法制ニ比較致シマシテ
モ寧ろ消極的ナ感ガアルノデアリ
マシテ、是ノミヲ以テ爭議豫防解
決ノ方途ノ全部デアリコトハ申ス
マデモナイ所デアリマシテ、爭議

發生ニ到ル原因、例ヘバ賃金其ノ
他ノ勞働條件、更ニ根本的ニハ食
糧問題、「インフレ」問題、失業問
題等ヲ解決スルコトガ必要デア
ルコトハ言フマデモナイノデアリマ
ス、政府ハ是等ニ付テモ能フ限リ
ノ努力ヲ傾注致シテ居ルノデアリ
マシテ、兩々相俟ツテ勞働關係ノ
公正ナル調整ヲ圖リ、以テ新日本
建設ニ資シタキ所存デアリマス

以上ノ趣旨ヲ以テ本法案ヲ提案
致シタ次第デアリマス、何卒御審
議ノ上速カニ御賛成アラントラ
希望致シマス

○逢澤委員長 質疑ノ通告ガアリ

マス——花月委員

○花月委員 此ノ法律ヲ審議致シ
マス前提トシマシテ二、三御尋ネ
ラ致シテ置キタイノデアリマス今
日ノ情勢カラ見マシテ此ノ勞働關
係調整法案ト云フモノハ時代のニ
非常ニ重要ナモノデアリマシテ殊
ニ凡ル法案ガ出テ居リマスケレ
ドモ、生活ト云フモノト直接關係
ガアリマスノデ、此ノ法案ガ本當
ニ企圖シタ所ガ達成スルカドウカ
ニ依ツテハ社會的ナ影響ガ非常
ニ多イト思ヒマス、隨テ此ノ法案
ヲ御提出ニナリマシタ精神ニ付テ
後デハ色々各條項ニ互ツテ質問ヲ
致サネバナラヌ部分ガアリマスケ
レドモ、初メ二、三御尋ネラ致シ

テ置キタイト思フノデアリマス、ソレハドウ云フコトカト言ヒマス、私ノ考ヘテ初メニ申上ゲマス、私ハ今日マデ自分ノ五十年ノ人生生活ト、ソレカラ十年バカリ前カラノ地方議會ニ於ケル經驗、サウ云フモノト考ヘ合セマシテ私ハ官僚ト云フモノノ比較的中正穩健ナ思想ト云フモノヲ今日マデ維持シテ來タノデアリマス、此ノ立場ヲ私ハハツキリシテ置カナケレバナラス、ソレハ所謂官僚ト云フモノノ比較的教養ヲ受ケテ居ルト云フコト、色々ナ周圍ノ環境カラ考ヘ方ハ非常ニ中正穩健ナル考ヘ方ヲ持ツテ居ルシ、法案其ノ他ノ規則ヲ拵ヘル場合ニ於キマシテモ、私ハ政黨生活ヲ營ンデ居ツタ者デアリマスガ、一寸無理ナ註文ヲ出シテモ官僚ト云フモノノ意見ヲ聽イテ見ルト非常ニ公平ナ意見ヲ吐露スル、斯ウ云フ意味ニ於キマシテ、今日マデ私ハ官僚ノ考ヘ方ト云フモノヲ殆ド全部維持シテ來タ一人デアリマス、ソレデハ官僚ヲ信賴シテ居ルカト云ヘバ、私ハ又官僚ヲ絕對ニ信賴シナイ一人デアリマス、ソレハドウ云フ譯カト云ヘバ、考ヘ方ハ非常ニ中正穩健デアリ、其ノ目的トスル法案トカ規則ト云フモノハ非常ニ良ク出來テ居ルノデアリマスケレドモ、其ノ實行ニ當ツテ遺憾ナ點ヲ今日マデ私ハ非常ニ澤山其ノ實例ヲ眺メテ來テ居ルノデアリマス、ソ

レハドウ云フコトデアアルカト云ヘバ、官僚ト云フモノノ性格カラシテ、殊ニ教養ヲ受ケタ「インテリ」層ト云フモノハドウシテモ勞働ノ關係ニ於テ比較的資本家ニ組シ易イ性格ヲ持ツテ居ル、又周圍ノ事情カラ申シマシテ資本家ト云フモノト結託——ト云フ言葉ハ私ハ用ヒタクナイノデアリマスケレドモ色々ノ狀況カラシテ資本家側ニ組シ易イ因縁ヲ持ツテ居ル、斯ウ云フ意味ニ於テ極メテ立派ナ人デアリデモ高イト云フ人間、我々ノ學生時代ノ友達ハ既ニ今日ノ日本ノ官僚ノ中心ヲナシテ居ルノデアリマスルガ、サウ云フ立派ナ人々デアリナガラ周圍ノ環境色々ノ事情カラシテ、ドウモ所謂地主トカ資本家ト云フモノヲ擁護スル立場ニ今日マデ立ツテ來タ實情ヲ私ハ眺メテ見テ、ソレハ大臣ハ勿論デアリマスガ、極メテ未端ノ低級ナ官吏ニ至ルマデサウ云フ傾向ノアルコトヲ私ハ今日マデ非常ニ見テ居ルノデアリマス、隨テ勞働關係調整法ヲ議スルニ當ツテ次ノ二、三點ニ付テ政府當局ノ考ヘ方ヲ先ヅ最初ニ確メテ置キタイト思フノデアリマス、第一番ハドウ云フコトデアアルカト云ヘバ此ノ法案ガ勞働組合法ト併セテ書イテアリマサルガ、勞働組合法ト併セテ此ノ法案ヲ提出ナサル所以ノモノハ、併セテト云フコトハ勞働組合法ノ補助的ナ法律トシテ其ノ完成ヲ期ス

ルガ爲ニ御出シニナルノデアアルカ、或ハ勞働組合法ト同ジカラシツタニツノモノトシテ之ヲ御提出ニナルノカ、或ハ其ノ企圖スル所ハ全然違フノダ、即チ之ヲモット具體的ニ言フナラバ、勞働組合法ト云フモノハ、アレハ勞働者ヲ保護スル法律デアツテ、今度出スノハ資本家ヲ擁護スル法律ナンド。斯ウ云フ意味ニ於テ御出シニナルノカハ私ハ資本家ヲ擁護サレル法律ガ出ルト云フコトニ反對ト云フ意見デハナイノデス、勞働者ヲ保護シテ資本家ヲ擁護スル法律ガナイト云フコトハ、私ハ不思議ニ思フ、勞働者ヲ保護スルコト云フコトハ資本家ヲ潰スト云フ意味ガ含マレテ居ルノデハナイ、勞働者ガ極メテ其ノ適正ナ生活ヲ送ル爲ニ、勞働者ヲ保護スルノデアツテ、勞働者ノ保護ハ即チ資本家ヲ潰スト云フ意味ニ取ラナイ、即チ資本家モ勞働者モ共ニ生キナケレバナラナイノデスカラ、サウ云フ意味ニ於テ決シテ反對ヲスルノデハナイノデスガ、一方勞働組合法ハ勞働者ノ保護ノ爲ニ拵ヘタノダガ、ドウモアレダケデハイケナイカラ今度ハ資本家ヲ擁護スル爲ニ此ノ法律ヲ拵ヘタノダ、是ハ肚ヲ打割ツテ御説明ヲ願ヒタイノデアリマス、或ハ勞働組合法ダケデ實ハ止メテ置キ積リデアツタガ、今日ノ勞働運動ナカフジツト見テ居ルト、ドウモ行過ギテ困ル、隨

テ勞働組合法ダケデハイケナイカラ、ソレヲ一ツ適正ニ「ブレイキ」ヲ掛ケル爲ニ今度ノ調整法案ト云フモノヲ拵ヘル、サウ云フ意味デアアルカ、此ノ御提出ニナツタ根本的ナ思想、根本ノ御考ヘテ私ハハツキリト御聽カセテ願ツテ置キタイノデアリマス。次ニモウ一ツ御尋ネ致シテ置キタイ事柄ハ、是ハ少シ御答ヘニクイト思ヒマスケレドモ、ハツキリ私ハ御答ヘテ願ヒタイノデアリマス、先程私ガ前提トシテ申上ゲマシタ通り、今日マデ官僚ハ非常ニ穩健ナル考ヘヲ持チ、而モ其ノ企圖スル所、拵ヘタ法律案トカ規則ト云フモノハ、比較的讀ンデ見レバ良イモノガ出來テ居ルノデアリマスケレドモ、不幸ニシテ今日マデ私ハドウシテモ官僚ト云フモノガ資本家トカ大地主トカ云フモノト結託——結託ハ少シカシイノデスガ、サウ云フモノニ加擔シ易イ傾向ガアル、ソレハ悉ク私ハアルト自ラ信ジテ居ルノデアリマスカ、勞働者ガ持ツテ居ル實力ハ何カト云ヘバ、是ハ一ツノ團體ノ力デアアル、隨テ彼等ハ示威運動ヲヤル「デモンストレーション」ヲヤル或ハ「パンフレット」ヲ配布スルトカ、貼紙「ビラ」宣傳ヲヤルトカ、或ハ其ノ他ノ言論機關ヲ用ヒルトカ、或ル場合ニ於キマシテハ非合法的ナ運動トシマシテ暴力ヲ

用ヒル、斯ウ云フコトハ屢ミアツタノデアリマスガ、是等ノ合法的非合法的共ニ官僚ハ非常ニ嫌ヒデアリマス、殊ニ「インテリ」官僚ニ至ツテハ斯ウ云フ運動ヲ非常ニ嫌フモノデアリマスカラ、中ニハサウ云フ勇マシイ運動ヲ見テ勞働者ハ非常ニ目覺メテ來タト喜ブ人モアルカモ知レマスケレドモ、併シ官僚ノ大部分ト云フモノハ勞働者ノサウ云フ姿ヲ非常ニ喜バナイ所ガ一方ニ於テ資本家ガ持ツテ居ル武器ハ何カト云ヘバソレハイツノ場合ニ於キマシテモ所謂社交的ナ因縁情實デアリ、一方ニ於テハ金力デアアル、此ノ金力ト云フモノハ常ニ女トカ酒ト云フモノヲ伴フモノデアリマシテ、ソレニハ人間ト云フモノハ入り易イ、隨テ官僚ト云フモノハ資本家ト結託スルノデヤナイケレドモ、ソコニ因縁情實ガ出來金錢ニ提ハレ酒トカ女ト云フモノニ禍ヒサレマシテ、ドウシテモ資本家ト云フモノ或ハ大地主ト云フモノト結託スルヤウナ恰好ニナツテ來タノガ今日マデノ實情ダト私ハ考ヘテ居ル、是ハ特ニ詭辯ヲ用ヒレバ知リマセマスケレドモ可ナリ官僚ノ末端ニ至ルマデ資本家、地主ト云フモノヲ擁護シテ來タト云フコトハ蔽ヒ隠スコトノ出來ナイ現實デアルト考ヘル、是ハ高級ナ人々ノミナラズ五十圓、七十圓ト云フ可ナリナ低級ナ月給取ニ至ルマデ、私等ガ學校デ教ヘテ

是ハ良イト思ツテ縣廳ナリサウ云フ所ニ世話シタノガ直グ一種ノ官僚的ナ考ヘヲ持ツテ來テ、私等ノ期待ニ反シテ居ル、是ハ何十、何百、何千ト實例ヲ見テ來タ話デアリマシテ、是ハ決シテ誤リハナイト思ツテ居ル、ソコデ政府ハ今日マデノ官僚ト云フモノガサウ云フ傾向ニアツタト云フコトヲ認メルカ認メナイカ、是ハ大事ナ問題デス、認メナイト仰シヤツテモ構ハナイ、認メルト仰シヤルナラバ私ハ此ノ法案ニ對スル考ヘ方ヲ餘程決心シナケレバナラス、私ハ是ハ一ツノ體驗ト言フカ、本當ニ體ニ味得致シテ居ルノデアリマスカラ私ハサウ信ジテ居ルノデアリマスガ、政府ハ今日マデ官僚ト云フモノガサウ云フ傾向ニアツタト云フコトヲ認メルカ認メヌカ、之ヲハツキリト御尋ネ致シテ置キタイト思フノデアリマス、是ガ第二ノ問題デアリマス

第三ニ御尋ネ致シタイノデアリマスガ、若シモサウ云フ傾向ガ今日マデ官僚ト云フモノニアツタトスレバ——ナイト仰シヤレバ勿論別デアリマスガ、アルトスレバ、此ノ法案ヲ御提出ニナルニ付キマシテハ餘程政府ハ決意ヲナサラナケレバナラス、即チ官僚ト云フモノニサウ云フ傾向ガアルトスルナラバ、ドンナ法案ヲ御作リニナリマシテモ、結局如何ニ良イ法案デアツテモ結論ハ分ツテ居ル、社會

黨或ハ共產黨ノ方ガ反對ナサルノハ此ノ法案ガ惡イト仰シヤルノデヤナクテ、其ノ結果ヲ非常ニ案ジテ居ナサルノダト私ハ信ジテ居ル私ハ此ノ法案ハ惡イトハ決シテ思ハナイ、社會黨、共產黨アタリノ方ガ之ヲ惡イト仰シヤルナラバ、私ニハソレガ分ラナイ、又色々ト陳情ガ來テ居リマスガ、此ノ法案ヲ惡イト言フ陳情ニ對シテハ私ハ一顧モ與ヘナイ、併シナガラ此ノ法案ガ通過シテモ、此ノ法案通り旨ク行カナイ、即チソレハ結局ニ於テ資本家或ハ大地主ヲ擁護スルノダ、官僚ガ自分ノ權力ヲ揮ツテ労働者ヲ抑ヘ付ケル結果ニナルノダト云フ御心配ニ對シテ、私ハ尤モダト思フ、サウ云フ意味ニ於テ本當ニ此ノ法案ノ精神ヲ活カサンガ爲ニハ、政府ハ餘程御決心ヲナサラナイト、官僚思想ト云フモノヲ餘程拂拭シテ、眞ニ今日マデノ官僚ガ資本家ニ對シ或ハ労働者ニ對シテ態度ヲ——是ハ厚生省バカリデナク、文部省、内務省邊リト十分御連絡ヲ取リマシテ、ソレヲオヤリニナラナケレバ、私ハ此ノ法案ノ本當ノ精神ハ活キテ來ナイト思フノデアリマスガ、ソレニ付キマシテハ政府ハ一體ドウ云フ御考ヘヲ御持チニナツテ居ルカ、是ガ第三デアリマス

面労働運動ガ一部ニ於テハ非常ニ行キ過ギテ居ル、私ハ労働運動ガ盛シニナツテ來ルコト民主的傾向ヲ帶ビテ來ルコトヲ非常ニ喜ブト同時ニ、一部ニ於テハ非常ニ行キ過ギテ居ル、或ハ部分ニ於テハ非合法的ノ運動ヲナシテ居ル、アノ淺マシイ姿ヲ見デ、私ハ心密ニ國家ノ前途ノ爲ニ憂ヘテ居ルノデアリマス、之ヲ放置シテ置ケバ決シテ労働運動ノ完全ナル發達ハ遂ガラレナイト思フノデアリマスガ、政府ハ之ヲ未然ニ起ラウトスルモノヲ唯抑ヘヨウトスル斯ウ云フ法律ヲ御作リニナツタケデハ、決シテ労働運動ノ發達ハ出來マセヌシ、又勞資ノ本當ノ融合ハ出來ヌノデアリマス、是ハ資本家或ハ地主ノ方ガ或ル意味ニ於テ教養ガ高イト思フノデアリマスガ、労働運動ヲ行ハレル場合ニ於キマシテハ基本的ナ精神ヲ考ヘ、或ハ教養ヲ與ヘ、色々ノ點ニ於テ労働運動ヲ指導スル一ツノ機關ヲ御設ケニナラナケレバ、今ノ儘デハ一種ノ「モツブ」ノ運動ニナル、私ハ甚ダ憂フベキモノガ出來ルト思フノデアリマス、私ハ自由黨ノ人間デアリマスケレドモ、労働運動ニハ可ナリ興味ヲ持チ、或ハ労働運動ニ付テハ私ハ實ハ労働者ノ味方デアル積リデアリマスガ、其ノ労働者ノ味方デアリ私ニ於テスラ、如何ニモ労働者ハイカヌ、是デヤ労働者ハナツテ居ラヌト時々聲援ヲ

スル場合ガアルノデアリマス、殊ニ今日ノ日本ノ道義ノ頹廢ト云フモノヲ考ヘテ見タ時ニ、労働者ノ一部ノ中ニ實ニ眼ヲ蔽フヤウナ言葉ヲ使ヒ、口ニモ言ヘズ、眼ニモ見ラレスヤウナ言動ヲナスモノガアル時ニ、極メテ正常ナル労働運動ヲ行ツテ居ル是等ノ人々ガ、斯ウ云フ一部ノ非合法的ト云フカ、野蠻的ナ人々ノ爲ニ誤ラレテ労働運動ガ行過ギデアル、斷壓ヲ加ヘラレテモ宜イト云ウテ、労働運動ニ斷壓ヲ加ヘラレト云フ事實ヲ見テ居ル、其ノ爲ニ警察官ガ横暴ダ、無理ダト云フコトガ起ツテ居ルノデアリマス、之ヲ眺メテ、思ヒ切ツテ政府ガ斯ウ云フ法律ヲ拵ヘテ巧ク労働運動ガ成長スルト御考ヘニナツタラ非常ニ誤リデアル、之ニ對シテハ私ハ十分ナ設備施設ト云フモノガナケレバ決シテ巧ク行カヌト思フノデアリマス今日ノ労働運動ガ正常ニ行ハレテ居ルカ、若シ行ハレテ居ルナラバドウ云フ方法ニ依ツテ助長スルオ積リデアルカ、先ヅ此ノ四ツノ問題ダケヲ初メニ御尋ネシテ置キマシテ、サウシテ又更ニ色々ト御尋ネサシテ載キタイノデアリマス

○河合國務大臣 只今ノ花月君カラノ御質問ニ御答ヘ致シマス、労働組合合法ト労働關係調整法トドウ云フ關係ニアルカト云フ意味ノ第一ノ御質問デアリマスガ、労働組合合法ト云フモノハ労働者ノ團體權ヲ擁護ト云フモノヲ根本ニシテ居ルコトハ疑ヒナイノデアリマスケレドモ、ナゼ労働組合ガ出來タカト云フコトハ、是ハヤハリ資本家トノ關係ニナリマス、資本家トノ關係ニナルト云フコトハ、結局労働組合合法第一條ニモ明記シテ居リマスル通りニ、經濟ノ興隆ト云フコトヲ主眼トシテ居リマシテ、労働組合合法ニ於テ團體權ヲ認メテ、之ヲ勞資トモ擁護シテ行クト云フコトハ、結局經濟ノ興隆デアリ、ソレガ即チ日本ニ於ケル——日本デモ世界デモサウデスガ、ヤハリ資本家、經營者側ニソレガ又本當ノ利益デアル、双方及ビ社會全體ノ利益デアル、双方及ビ社會全體ノ利益デアルト云フ見地ニ立ツテ居リマスルカラ、サウ云フ見地デ労働組合合法ト云フモノヲ御考ヘ下サレバ、自然労働組合法ノ意味モハツキリシテ來ルト思フノデアリマモ、ソレカラ調整法ト労働組合法トハドウ云フ點ニ於テドチラガ重イカト云フ御質問デゴザイマスガ、此ノ調整法ハ一方ニハ言フマデモナク労働組合法ノ妹ト云フヤウナ法律ニナツテ居リマス、ト申シマスノハ韓旋ニシマシテモ調停ニシマシテモ、仲裁ニシマシテモ労働組合法デハハツキリシテ居リマセヌ、ソレヲ受ケマシテ之ヲ規定シテ居リマスカラ、其ノ點カラ言ヒマスルト從タル關係ト云ウテ宜イト思ヒマス、併シナガラ一方

ニ於テヤハリ公共ノ福祉擁護ノ上
カラ爭議權ニ或ル程度ノ制限ヲ加
ヘテ居リマス、此ノ點ハ調整法獨
得ノモノト云フモ宜カラウト思
ヒマスガ、其ノ點ニ付テハ自主的
ノ立場ヲ持ツテ居リマス、サウ云
フコトカラ一概ニ是ハ主タリ從タ
リト云フコトニハ參リマセヌケレ
ドモ、一部ハ從テアリ、一部ハ主
デアルト云フ風ニ御考ヘ願ツタラ
宜イデハナイカト云フ風ニ考ヘテ
居リマス、隨テ組合法ニシマシテ
モ、調整法ニシマシテモ、ドチ
ノ階級ノ爲ニ特ニ作ツツト云フ趣
旨デアリマセヌデ、兩方共日本經
濟ノ興隆ト云フ所ニ合流點ヲ求メ
テ居ルノデアリマシテ、今御指摘
ノヤウナ、調整法ト云フモノハ資
本家ヲ擁護スルノダト思フヤウナ
意味ハ一ツモ持タヌト私ハ考ヘテ
居リマス、是ハ勞働關係ヲ調整シ
テ行クト云フコトガ眼目デアリマ
シテ——公益ノ擁護ト云フコトハ
アリマスケレドモ、資本家側ヲ擁
護シ、或ハ勞働者ヲ彈壓スルト云
フヤウナ趣旨ハ一ツモアリマセヌ
勿論爭議權ト云フモノハ絕對ノモ
ノデアアルカト云フト、爭議權ト云
フモノガ絕對ノモノト考ヘルコト
ノ出來ナイノハ、是ハ憲法ノ草案
ニモ明示シタ所デアリマス、唯公
共ノ利益ニ於テ一種ノ制限ヲ加ヘ
ルト云フコトヲ此ノ法律ニ於テ明
カニシタ點ハアリマス、ケレドモ
決シテ是ハ彈壓ト云フ點デハナイ

ノデアリマス、況ヤ資本家ヲ擁護
シタ點デハアリマセヌ、ヤハリ兩
方ヲ全ク同ジ立場ニ於テ見テ居ル
サウ云フ風ニ私ハ考ヘルノデアリ
マス
ソレカラ第二ノ點デアリマス、
官僚ト云フモノハ今マデ資本家ナ
リ、地主ナリヲ擁護シテ來タノデ
ヤナイカ、ト云フ御尋ネデアリマ
スガ、其ノ事實ニ付テハ、ソレヲ
擁護シタトカセヌトカト云フコト
ヲ此處デ批判シテモ仕方ノナイコ
トデ、擁護シタ、セヌト云フコト
ヲハツキリ申上ゲル責任ヲ私ハ一
寸持チタクナイ、持チタクナイケ
レドモ、私モ今マデ官僚制度ニ對
スル不滿ヲ抱イテ居ル一人デアリ
マシテ、御同感ナ點ガ多クアルト
云フコトヲ申上ゲデ置キマス、私
ハ元官僚出デアリマシテ、ソレカ
ラ民間ニ居リ、又時々官僚ヲヤツ
テ居リマシテ、ソレニ對スル事情
ヲ能ク知ツテ居リマスガ、是ハ官
僚自體感ジテ居リマス、其ノ點ニ
付テハ、御同感デアリマスガ、大
體ニ於テ勞働者ノ權利ヲ餘リ認メ
ナイデ、資本家、地主ノ勢力ガ社
會的ニ非常ニ強カツタ今マデノ時
代デアリマスカラ、サウ云フ時代
ニハドウシテモ官僚ト云フモノハ
サウ云フ方面ト接觸ガ非常ニ多カ
ツタト云フ事實ハ認メナクテハナ
リマセヌガ、勞働問題ガ盛シニナ
ツテカラ、果シテ官僚ガ勞働者ニ
偏ラナカツタカト云フ點ニ付キマ

シテハ、是ハ一概ニ言ヘヌト思ヒ
マス、官僚ハヤハリ片方ヘ傾イタ
コトノ多イ點モアリ、又サウデナ
イ點モアルト思ハレマスノデ、是
ハ箇々ノ事實デアリマスカラ、其
ノ批判ハ私ニハ出來マセヌ、ガ大
體ニ於テ官僚制度ト云フモノガ餘
リ今リマデ巧ク行ツテ居ラヌノ
デ、之ヲ改メナクテハナラヌト云
フ點ニ於テハ御同感デアリマス
ソレカラ第三ノ問題デアリマス
結局官僚制度ヲ改メナクハナラ
ヌト云フコトニナリマス、大體
今度ノ調整法ナリ、組合法ト云フ
モノハ官僚ヲ動かシテ行クト云フ
場面ハ絕對ニナイデハアリマセヌ
厚生省中心デ或ハ司法省ニ關係ガ
アリマセウシ、内務省ニモ關係ガ
アリマセウ、ガ主トシテ是ハ公益
擁護ノ立場ニ立ツテ居ル場合デア
リマシテ、公益擁護ノ立場ニ於テ
ル官僚ト云フモノガ、ドウ云フ働
キヲシタカト云フト、先ニ御指摘
ノ點ト多少問題ノ角度ガ違ツタ來
ルヤウニ思ハレマスガ、大體ハ此
ノ勞働問題ノ運用ト云フモノハ民
主的ニヤツテ行ク、殊ニ勞働委員
會ト云フモノヲ中心ニヤツテ行ク
ト云フコトハ此ノ法規全體ニ現ハ
レテ居ル所デアリマス、又組合法
ニ於テモ其ノ通りニヤツテ居リマ
スノデ、此ノ點ニ重點ヲ置イテ來
マスカラ、官僚ノ悪い所ハ勿論變
ヘナクテハナラヌガ、官僚ノ悪い
所ヲ變ヘルト云フコトガ、百一パ

ーセント——此ノ問題ガ斯ウ云フ風
ニ行クト云フコトト同一ニ考ヘル
譯ニ行カヌ、少シ説明ハ諄クナリ
マスケレドモ、サウ云フヤウニ考
ヘマス、寧ロ此ノ問題ト云フモノ
ハ民主的、自主的ニ是ハ一種ノ
裁定ヲナサナクテハナラヌ立場ニ
アルカラ、其ノ裁定權ト云フモノ
ハ勞働委員會ニ集中シテ行ク、而
モ其ノ勞働委員會ハソレヲ強制シ
ナイト云フ立場デ問題ヲ取扱ツテ
行ク、或ハ平行線ノヤウニ此ノ勞
資ノ問題ガ食ヒ合ハヌト云フコト
ハ、或ル場合ニハ豫想サレルカモ
知レマセヌガ、ソレデモ之ヲ片方
カラ食ヒ合ハセテ行ク、裁判的ニ
スバツト決メテ行クト云フコトハ
妥當デハナカラウト云フ位ニ御諒
承願ヒタイト思ヒマス
ソレカラ第四ノ問題デアリマス
ガ只今ノ勞働問題ハ間々行過ギノ
アツタコトハ私モ御同感デアリマ
ス、此ノ際勞働者ノ自覺ト教養ト
云フコトヲ切望シテ已マヌコトモ
御同感デアリマスルガ、社會現象
ハドウシテモヤハリ斯ウ云フコト
ヲ通ツテ行クベキモノデアリ、ソ
レ自身ガヤハリ進歩デアリ、發展
デアリ、向上デアルト私ハ考ヘテ
居リマスノデ、之ニ對シテ餘リ官
治的ニ指導スルト云フヤウナコト
ハ勿論考ヘテ居リマセヌ、併シナ
ガラ適當ナ民主的方法デ適當ナソ
レニ對スル指導方法ガアレバ非常
ニ結構ダ、サウ云フ風ニ問題ヲ考

ヘテ居リマス
○川崎(秀)委員 私ハ曩ニ本會議
デモ質問ヲ致シテ居リマスノデ、
本日ハ重複ヲ避ケマシテ、極メテ
具體的ニ質問ヲ致シタイト思ヒマ
ス、ドウゾデキバキト御答辯ヲ願
ヒタイト思ヒマス、勞働委員會ガ
占ムル位置ガ、今後此ノ法案ガ成
立スレバ、極メテ、重要ナル地位
ニナルト云フコトハ、多クノ方々
カラ指摘サレテ居リ、私モ指摘シ
タ一人デアリマス、ソレガ爲ニ勞
働委員會ガ、民主的ニ今後改組サ
レナケレバナラヌ、是ハ必然ノ
運命デアルト私ハ考ヘマスガ、現
在ノ中央勞働委員會、或ハ地方勞
働委員會ト云フモノハ、一體ドノ
ヤウナ活動ヲ示シテ居ルノカ、
先頃或ル新聞ノ報道ニ依ルト、勞
働委員會ガ勞働爭議ヲ調停シテ成
功シタ事實ガ非常ニ殖エテ居ルト
云フ報道ヤ、又聞ク所ニ依ルト勞
働委員會ノ調停ガ成功セズシテ、
爭議ノ調停カラ手ヲ引イタト云フ
ヤウナ事件モアルト云フコトヲ聞
イテ居リマス、最近ノ活動狀況ノ
大體ノ所ヲ御示シ願ヒタイト思ヒ
マス
○河合國務大臣 勞働委員會ノ組
成ニ付キマシテハ、是ハ本會議デ
モ申上ゲマシタガ、經過的ニ勞働
委員會ヲ組成セザルノ已ムヲ得ザ
ル事情デアツタ爲ニ、勞働組合法
施行令第三十七條第四項但書及ビ
第五項ノ特別ノ規定ヲ適用シマシ

テ、暫定の工作タ次第デアリマス、ソレデ愈々組合ノ方モ段々固マツテ行キマスルシ、經營者側ノ方ノ團體モ段々固マツテ参リマシテ、今度ハ本當ニ組合ノ趣旨ニ從ツテ、勞働委員會ヲ組織シ直ス爲ニ、目下努力シテ居リマシテ、昨日モ中央委員會ヘ其ノ委員ノ選出方法ヲ諮問シテ、意見ヲ求メテ居ルヤウナ次第デアリマス、是ハ出來ルダケ早イ機會ニ於テ満足ナモノニシタイ、民意ヲ反映シタ民主的ナモノニシタイト云フ考ヘデ居リマス、ソレカラ其ノ成績ニ付キマシテハ今ノ御指摘ノ通り色々デゴザイマスガ、大體ノ數字其ノ他ノコトハ政府委員カラ御説明申上ゲマス

○吉武政府委員 勞働委員會ノ活動狀況ニ付テ申上ゲマスガ、今マデ分ツテ居リマスル數字ヲ先ヅ申上ゲマスルト、中央勞働委員會デ關係致シマシタ件ハ、爭議ニ付キマシテハ三件ゴザイマス、其ノ中ノ二件ハ調査ヲ致シテ、後ノ一件ハ自主的ニ解決シテ居リマス、勿論是ニハ直接ノ解決案ハ示シマセヌガ、調査ニ依ツテ取持ツタ點ガ多クアツタと思ツテ居リマス、ソレカラ地方勞働委員會ノ方デ關係致シマシタ件數ガ二十八件ゴザイマス、其ノ内譯ヲ申シマスルト十二件ガ調査ヲ致シ、五件ハ勸告ヲ致シテ居リマス、ソレカラ十一件ハ調停ヲ致シテ居リマス、ソレ

ニ依ツテ解決致シマシタノハ五件デアリマシテ、自主的ニ解決ヲシタノガ四件デアリマス、又未解決ニナツテ居ルモノガ十九件ゴザイマス、是ハ五月ノ末日マデニ報告ノアリマシタ狀況デアリマス、一般的ニ申シマスルト勞働委員會ハ組合法ノ施行ガ三月ノ一日カラ施行ニナツタ、ソレカラ各地トモ大體ハ三月中ニ結成ヲ終ツテ居リマスガ、最初取扱ツタモノハ所謂組合法ニ依リテ組合ガ届ケラレタモノガ、資格ガアルカナイカト云フ點ノ、所謂資格審査ト云フ點ガ相當多ク出テ居リマシタノデ、四、五月頃ハ各地方ノ勞働委員會ハ其ノ資格審査ニ非常ニ追ハレテ居ツタヤウデアリマス、其ノ後爭議ガ段々勞働委員會ニ持掛ケラレマシテ、勞働委員會ガ或ハ調査ニ乗出シ、或ハ勸告ヲスル、サウ云フ風ニナリマシテ漸次勞働委員會ガ活動ニ役立ツテ居ルヤウニ私共ハ考ヘテ居リマス、此ノ組織ニ付キマシテハ色々意見ガアル所デアリマスルガ、是ハ當初デアリマシテ、又組合モ十分ニ結成サレテ居リマセヌカラ、便宜的ナ方法デ結成サレタ點モゴザイマスノデ、只今大臣カラ御話ガアリマシタヤウニ、中央、地方ヲ通ジテ近イ機會ニ改組シテ、完全ナモノニシタイ、斯様ニ存ジテ居リマス

○川崎(秀)委員 今勞政局長カラ御話デハ、近イ將來ニ於テ勞働委員會ヲ改組セラレルト云フ御話デアリマス、勞働者側ノ代表ハ、勞働者ノ全國的ナ團體カラ選出サレタモノデナケレバナラナイ、又使用者側ノ團體ハ經營者ヲ代表スルモノデナケレバナラナイ、第三者ノ代表ハ勞資双方ノ同意ヲ得テ而モ學識ヲ驗アル者デナケレバナラナイト云フ風ニ私共ハ考ヘテ居ル勞働委員會ノ構成ニ對スル一ツノ基準デアリマスガ、近キ將來ニ於テ改組スルト致シマシテ、勞働者側ノ團體トシテ其ノ對象ニナリ得ル團體ガアレバ、此處デ御答ヘ願ヘル範圍ニ於テ御答ヘ願ヒタイ

○吉武政府委員 只今御話ニナリマシタ線ニ大體私共考ヘテ居リマスガ、今ノ全國的ナ組織體ト云フノハ、中央ノ勞働委員會ニ付テノ御言葉デアラウト思ヒマス、地方ハ又府縣内ニ於ケル組合ノ代表或ハ使用者關係ノ代表ヲソレト出スベキデアリマス、今中央、地方共ニドウ云フ團體カラ推薦サシタラ宜イカト云フ點ハ、中央勞働委員會ニ厚生大臣カラ諮問ニナツテ居リマシテ、中央勞働委員會ニ於キマシテモ唯委員ガ勝手ニ作ルト云フコトデナシニ、各組合其ノ他ノ意見ヲ徵シテ作ラウト云フコトデ、目下進行中デゴザイマス、目下ノ所中央ノ全國的ナ團體ト目サレテ居リマスル勞働組合ニハ、勞働總同盟ガ一ツゴザイマス、尙ホ其ノ外ニ産別單一勞働組合ガ十

數箇出來テ居リマシテ、ソレガ一ツノ産別勞働組合會議ト云フ形式ヲ取ツテ居ルモノガゴザイマス、其ノ外、國鐵デアリマスルトカ、其ノ他サウ云フ企業別ニ出來テ居ル勞働組合ガ數箇アルヤウナ狀況デゴザイマス

○川崎(秀)委員 本法案ノ第三十八條ニアリマス「警察官吏、消防職員、監獄において勤務する者その他國又は公共團體の現業以外の一ト云フ、此ノ現業ノ意味デアリマスガ、之ニ對シマシテ本會議デ穂積君デアツタカト思ヒマスガ御質問ニナリマシテ、之ニ對シテ厚生大臣ハ個々ノ場合ニ於テ社會通念ヲ基礎ニシテ決メルト云フヤウナ御話デアリマシタガ、之ヲモウ一步具體的ニ表明シテ戴ク譯ニイカナイカ、例ヘバ通信、運輸ト云フヤウナ團體ニ於ケル所ノ現業或ハ東京都ノ都電或ハ都「バス」ト云フモノハ現業ニ入ルモノカドウカ、是等ニ付テ御答ヘ願ヘバ結構ト思ヒマス

○吉武政府委員 三十八條ニ所謂現業トアリマスルノハ、國家、公共團體ノ行ヒマスル公企業デ行フ現業ノ意味デアリマス、隨ヒマシテ只今御言葉ニアリマシタヤウニ國鐵ノ現業デアリマスルトカ、或ハ市電ノ現業、或ハ「バス」ノ現業或ハ通信關係言フ所謂郵送ノ現業、サウ云フ意味デゴザイマス

○河合國務大臣 是ハ行政官廳カ「イニシアテイヴ」ヲ取ツテ勞働委員會ニ請求スルト云フコトニナツテ居リマシテ、勞働委員會ノ權限ニ於テソレヲ調停シテ行クト云フコトニナツテ居リマス、ソコデヤハ行政官廳ト云フモノハ公益擁護ト云フコトガ一番目標ノ重大ナモノニナツテ居ルノデアリマスカラ、斯ウ云フ途モ開イテ置ク必要ガアルト云フ意味デアリマス併シナガラ調停ト云フコトハ、調停ハ案ガ出來マシテモソレヲ勸告スルノデアリマシテ、是ハ強制スルノデアリマセヌカラ、結局ニ於テ強制力ヲ持タヌカラ、先ヅ是レ位ノ「イニシアテイヴ」ヲ取ラシテモ宜カラウト云フ意味デアリマス

○川崎(秀)委員 次ニ私ハ最近新聞ノ爭議ニ付テ極メテ注目スベキ事件ガ起ツテ居ルノデハナイカ、ソレハ何デアルカト云フナラバ、日本ニ於ケル有數ナ新聞ノ一ツデ

アル讀賣新聞が爭議ヲ起シ、最近ハ「ストライキ」ヲ起シテ四日間デアリマス。新聞が發行不能ニナツタ、ソシテ問題ヲ客觀的ニ見テ行キマス時ニ、是ハ可ナリ新聞社ノ内部事情ニ發シタモノデアルト云フ風ニ考ヘマス、殊ニ政治的ナル意味ガ其ノ中ニ隱サレテ居ルヤウニ私共ニハ感ゼラレルノデアリマスガ、是ハ新聞ト勞働組合ト云フ問題ニ付テ極メテ深刻ナ問題ヲ展開シテ居ルノデハナイカト私ハ考ヘルノデアリマス、讀賣新聞が昨年日本ノ新聞界ニ於テ、戰爭中ノ戰爭責任ヲ追及ヲ致シマシテ、又勞働組合ノ發展ノ爲ニ其ノ「トツブ」ヲ切ツタ、新聞ノ民主化ノトツブヲ切ツタト云フコトデハ私ハ洵ニ敬服ニ堪ヘナイ所デアリマス其ノ結果讀賣新聞ハ日本ノ新聞界ノ先頭ヲ切ツテ新聞民主化、言論ノ自由ト云フコトニ付テ非常ナ努力ヲサレタコトハ、私共ハ之ヲ認ムルニ吝カデナイ、併シナカラ次第ニ此ノ讀賣新聞ノ傾向ト云フモナガ、或ル一黨一派ノ影響ヲ強ク受ケテ來タト云フコトモ、是ハ事實デハナイカト私ハ考ヘル、昨年言論ノ自由、言論ノ解放ト云フコトガ叫バレテ、凡ユル面ニ於テ言論ノ自由ハ極度ニ發揮ヲサレマシタ、洵ニ喜ブベキ現象デアアルトハ思フノデアリマスガ、本年ノ三、四月頃カラ五月頃ニ掛ケテ、特ニ幣原内閣ノ退陣、吉田内閣ノ誕生

ト云フ此ノ頃ノ時期ニ於キマシテ日本ノ新聞界ノ一部分ガ極メテ無政府主義的ナ言論ノ自由ヲ極度ニ發揮シテ、例ヘバ眞實ノ報道ヲ歪曲スルヤウナ記事ガアツタリ、或ハ報道ノ中ニ自分ノ意見ヲ附加ヘテ行クト云フヤウナ現象ガ起キテ居ル、是ハ私ハ質問シタツテ恐ラク誰モ答ヘル者ハナイト思フカラ、私ハ唯此ノ際關聯シテ申上ゲテ居ルノデアリマス。ケレドモ、讀賣新聞ノ五月十三日頃ノ新聞ヲ見テミルト、裏モ表モマルデ報道ノ中ニ自分ノ意見ヲ勝手ニ附加ヘテ居ル勿論私ハ論說デアルトカ、個人ノ署名ガアルヤウナ初メカラ自分ノ主張ヲスル記事ハ、是ハ如何ニドノヤウナコトヲ書イテモ差支ヘナイ、今日極端ナル軍國主義以外ノ一切ノ思想ト云フモノハ許サレテ居ル、併シナガラ報道ノ中ニ自分ノ意見ヲ勝手ニ書キ加ヘテ來テ、此ノ動搖ト混亂ノ最中ノ國民ヲ惑ハセルガ如キ報道ヲナシタ新聞ハ大イニ我々之ヲ是正シナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、ソコデ一體是ハ言論ノ自由ト云フ問題ハ無制限デアアルカドウカト云フ問題ニ付テハ、責任ヲ持タナケレバナラヌト云フコトヲ私ハ強調致シタイノデアリマスガ、今日内務省ハ言論ノ取締ト云フ力ヲ失ツテ居ル、恐ラク答辯モサレナイト思フノデアリマスノデ、敢テ質問ハシマセヌケレドモ、今回ノ讀賣

新聞ノ爭議ノ發端ニナツタモノハ勞働組合ガ勞働條件ノ改善、勞働者ノ地位ヲ向上シテ經濟ノ興隆ニ寄與スルト云フ勞働組合ノ目的ヲ達成スル爲ニ起シタ爭議デハナクシテ、二編輯權ノ確立ト云フコトニ端ヲ發シテ居ルモノデアルト私ハ思フ、ソコデ私が御伺ヒテ致シタイ點ハ、讀賣新聞ノ爭議ヲ一此處デ經過ヲ發表シテ貰ヒタイト云フノデアリマセスガ、是レ程重要ナ新聞ガ爭議ヲシタト云フコトハ厚生當局ハ無關心デハアリ得ナイト私ハ思フ、隨テ爭議ノ發端ガ何ニ原因シタカト云フコト位ハ明確ニ御答辯ヲ願ヒタイト思ヒマス

○河合國務大臣 讀賣新聞爭議ノ發端ニ付キマシテハ政府トシテ一政府トシテト云フヨリモ厚生省トシテト申シタ方が宜イガ、特別ニ調査シタ事實ハアリマセス、司法省或ハ内務省方面ニハドウ云フコトニナツテ居ルカ、ソコノ連絡ハマダ存ジマセヌ、ソレデ是ハモウ御承知ノ通り、色々非常ニ複雑ナ階梯ヲ經過シテ來テ居リマスガ最近ノ「ストライキ」ト云フモノハ新聞通信單一組合ト云フモノ方カラ是ハ勞働組合法違反ナリト云フコトデ、アノ五人カ六人臆首シタシタト云フ風ノ理由デ東京都ノ勞働委員會ニ提訴サレテ居リマス、ソレニ對シテ新聞社側ハ、アレハ編輯上ノ目的カラノ都合デアツタノデアツテ、組合法違反デナイト云フ主張ニナツテ居リマシテ、ソレヲ只今東京都勞働委員會ニ於テ審査シテ居リマス

○川崎(秀)委員 私ハ厚生大臣ノ只今ノ答辯ハ全く不滿デアリマス是レ程ノ大新聞ノ爭議ニ對シテ爭議ノ發端ガ何デアアルカト云フコトヲ私ハ聽イテ居ルノデアリマシテ事實ハ新聞單一組合ガ提訴ヲシタト云フコトダケハ事實ダト云フコトヲ言ツテ居ラレマスガ、全く私ハ是ハ詭辯デハナイカト考ヘルノデアリマス、併シ爭議ノ發端ガ何デアアルカト云フコトヲ厚生當局ハ明示サレマセヌデシタガ、我々ガ得タ所デハ――只今厚生大臣ハ慥カ新聞社側ト云ハレマシタガ、新聞社側ト勞働組合トノ對立デハナクシテ、讀賣新聞ノ従業員ノ中ニ「ストライキ」ヲヤルト云フコトニ賛成スル者ガ少數デ、反對スル者ガ多數デアルト云フ一ツノ内紛ヲ私ハ此ノ中ニ含マレテ居ルヤウニ考ヘルノデアリマス、ソコデ私ハ質問ヲ致シタイノハ、假ニ多數ノ者ガ「ストライキ」ニ反對シ少數ノ者ダケガ「ストライキ」ヲ敢行シタ場合ニ、其ノ爭議ト云フモノハ一體合法デアアルカ非合法デアアルカ、此ノ點ヲ一ツ御聽キシタイト思フ

○河合國務大臣 讀賣新聞ノ問題ニ關聯シマシテ、ソレガ事實新聞ナド傳ヘテ居ルコトハ私モ承知シテ居リマス、個人トシテハ多分ニ此ノ問題ハ承知シテ居リマス、併シナガラドウモ政府トシマシテ、具體的ナ此ノ問題ニ對シテドウ思フカト云フコトニ對シテ、只今其ノ意見ヲ發表スル時期ニ至ツテ居リマセヌ

○川崎(秀)委員 ソレデハ讀賣新聞ノ場合ト切離シテ、今私が申上ゲタ例ヘバ少數ノ者ガ「ストライキ」ヲ敢行シ、大多數ノ者ガ之ニ反對スル、總會ノ決議ニ於テ「ストライキ」ハ非合法ナリト云フ宣言ヲ従業員組合ガ宣言スルト云フコトニナツタナラバ、其ノ「ストライキ」ヲ行ツテ居ル者ハ非合法デハナイカ、私ハサウ思フノデアリマスガ、組合法ノ中ニ斯ウ云フ規定ガナイコトガ間違ヒデハナイカト考ヘル、例ヘバ千八百名ノ従業員ガ居ツテ、總會デ千六百名出席ヲシタ、其ノ結果「ストライキ」ヲヤルカラナイカト云フコトノ自由ニ表明サレタ意思デ、七百九十名ガ賛成シテ、八百一名ガ反對スレバ、其ノ爭議ハ有效デナイト思フノデアリマスガ、若シモ有效デナイト云フコトデアアルナラバ斯ウ云フモノヲ組合法ノ中ニ謳ツテ行カナイト、今後大キナ紛争ガ起ルノデハナイカ斯ウ考ヘルノデアリマスガ、如何デゴザイマセウ

○河合國務大臣 組合内部ノ問題ニ互リマスノデ、之ヲ第三者的ニ見マシテ、適當デナカラウト云フ

コトハ言ヘルト思ヒマス、併シ合法、非合法ト云フ問題トハ自ラ線ガ違ツテ居ルト考ヘマス

○川崎(秀)委員 ソコデ私ハ最後ニ、是ハ極メテ重要ナ問題デアルト思フノデ、厚生大臣ノ明確ナ答辯ヲ私ハ期待ヲ致シテ居リマス、過グル本會議ニ於キマシテモ、私ハ日本ノ勞働組合ガ正シク且ツ違マシク發展ヲスル爲ニハ、一黨一派ノ爲ニ利用サレルコトノナイヤウニシナケレバナラナイ、勞働組合ノ政治活動ト云フモノハ、其ノ目的ヲ達成スル爲ニ自由デアアルベキデアアルガ、或ル特定ノ政黨ノ看板ヲ常ニ擔ガガ如ク、或ハ政黨ノ地盤競争ノ具ニ供セラレルガ如キコトハ過チデナイカト云フコトヲ厚生大臣ニ質問シタ、厚生大臣ハ之ニ對シテ勞働組合ト云フモノハ主トシテ政治上ノコトヲヤルノデハナイノダカラサウ云フ行動ハ好マシクナイト云フヤウナ御返事ガアツタト私ハ承知ヲ致シテ居リマス、ソコデ私ハ今日御尋ネヲ致シタイコトハ、是ハ正確ニ申上ゲナイト後日ノコトモアリマスノデ原文ヲ追ツテ申上ゲル、七月十五日「マツカーサー」司令部涉外局ガ我が國ノ勞働運動ニ對シテ極メテ重要ナル發表ヲ行ツテ居ル、此ノ原文ニ付テハ十分御承知ダト思ヒマスノデ、長イコト話シマセヌガ、其ノ中デ、日本國內デハ或ル種ノ左翼分子ガ例ノヤウナ誇張シ

タ宣傳ヲ眞實ノ歪曲デ、曾テノ右翼ガヤツタヤウニ大衆ノ軍隊ノ組織化ヲ圖ル目的デ勞働運動ノ指導權ヲ握ラウト努メテ居ル、斯ウ云フコトガ指摘サレテ居リマス、即チサウ云フヤウナモノヲ勞働組合ハ避ケネバナラナイト云フコトヲ言ハレテ居ルノデアルト私ハ解釋シテ居ル、更ニ其ノ二、三日前「アチソン」アメリカ代表ハ對日理事會ノ席上デ、日本ノ勞働運動ハ極右極左ノ何レヲモ採ラズ、中道ヲ歩ムコトガ望マシイト云フコトヲハツキリ言ハレテ居ルノデアリマスガ、私ハ勞働組合ガ眞ニ民主的ニ動クナラバ、ソレハドノヤウナ主義デモ差支ヘナイ、自由主義デアラウト共產主義デアラウト、社會主義デアラウト如何ナルモノデモ自由ニ表明サレタ多數ノ意思ニ依ツテ勞働組合ガ動クナラバ、而モ穩健ナル行キ方デ動クナラバ、ソレハドノヤウナモノデアラウツテモ差支ヘナイト私ハ思フ、併シナガラ現在ノ極左翼ノ勞働組合ニ對スル動キハ是等ノ點ニ於テ確カニ調子ヲ失シテ居ルノデハナイカト思フノデアリマシテ、「マツカーサー」司令部及ビ「アチソン」代表ガ指摘サレタコトハ確實ニ其ノ「ボイント」ヲ私ハ突イデ居ルト思フ、ソコデ厚生大臣ハ勞働組合ノ健全ナル發展ノ爲ニハ極右、極左ノ何レヲモ採ラズ、一黨一派ニ偏スルコトナク、勞働組合運動

ガ違マシク發展シテ行クト云フコトニ御同意デアルカドウカ、其ノ點ニ付テ明快ナル御答辯ヲ私ハ望ミタイノデアリマス

○河合國務大臣 「マツカーサー」司令部カラ發表ニナツタ御意見ニ付テ同感デアリマス

○川崎(秀)委員 私ハ尙ホ勤勞者ノ體位向上、勞働者ノ「スボーツ」政策ヲ如何ニスベキカト云フコトニ付テ文部當局ニ御尋ネヲ致サウト思ヒマシタガ、文部大臣ハ憲法委員會デ御忙シイサウデアリマスカラ、後日ノ機會ニ譲リマシテ、是デ私ノ質問ヲ終リマス

○達澤委員長 辻井民之助君

○辻井委員 私ハ文部大臣並ニ司法大臣ニモ御尋ネシタイコトガアリマスノデスガ、先ヅ御出席ノ厚生大臣ニ御尋ネシタイト思ヒマス

本案ガ上程サレルト云フコトガ傳ハリマスルヤ、當局モ御承知ノヤウニ、此ノ法案ニ依ツテ爭議ヲ制限サレル官公吏或ハ公共事業ニ從事スル勞働者、職員ヲ以テ作ツテ居リマスル全國ノ勞働組合ハ申スニ及バズ、殆ンド總テノ勞働者ガ之ニ向ツテ猛烈ニ反對ヲバ續ケテ居リマス、此ノ反對ノ理由ト致シマシテハ、先ニ必ズシモ内容ニ反對スルノデハナカラウ、官僚ニ依ル運用ニ對スル不安カラ反對スルノデハナイカト云フヤウナ同僚カラノ御意見モアリマシタガ、私ノ知ル所デハ決シテサウデハアリマ

セヌ、内容ニ付テノ反對モ勿論色アリマスルガ、ソレヨリモ反對ノ先ヅ根本的ナ理由ハ此ノ法案ヲバ政府ガ提案スルニ至ツタ所ノ動機トカ、意圖トカ、又其ノ制定ノ仕方ト云フヤウナコトニ付テ、先ヅ第一ニ大ナル不滿ヲ保持ツテ居ルノデアリマス、是等ノ多クノ勞働組合ニ於キマシテハ、勞働運動或ハ爭議ニ對シテ事業ノ性質等ノ爲ニ多少ノ制限ヲ受ケルコトニ根本的ニ反對シテ居ルモノハ私モナイト考ヘマス、併シ斯様ナモノヲバ茲ニ出ス爲ニハ相當ナ準備ヲ順序ヲ履ムベキデアリマシテ、官公吏或ハ公共事業ニ從事シテ居ル者ニ爭議ノ制限ヲ加ヘヨウトスルナラバ自分等ノ要求ヲ十分ニ爭議ニ依ツテ解決スルコトノ出來ナイ立場ニ置カレル者ニ對シテ、先ヅサウ云フ要求ヲシタリ、爭議ヲスル必要ナカラシメルヤウナ處置ヲ執ルベキコトガ、政府ノ執ルベキ根本的ナ行キ方デハナイカト思ヒマス、終戦以來勞働組合ガ急速ニ發展シテ參リマシテ、官公吏ニモ或ハ公共事業ニモ同様ニ續々ト勞働組合ガ生レテ參ツタノデアリマスガ、今モ相當行過ギニナツタト云フヤウナ批判モアリマシタガ、確カニ私等モソレヲ認メマス、併シ永年壓迫ノ加ヘラレ、彈壓ニ彈壓ヲ被ツテ參リマシタ勞働者ガ漸クニシテ戰爭ニ因ル莫大ナ、言語ニ絶スル犠牲ノ代價トシテ自由ガ

與ヘラレタノデアリマス、サウシテ奔流ノ如ク組合ヲ作ツテ乗出シテ來タノデアリマスカラ、多少ノ行過ギヤ失敗ガ伴フノハ決シテ無理デハナイ、多少ノ行過ギノアツタヤウナ向キニ於キマシテモ、社會ノ批判、或ハ自己批判ニ依リマシテ、段々正シイ方向ヘト向ツテ居ルノガ事實デアリマス、是等勞働組合ノ今日マデノ運動ノ結果、ドレ程日本ノ再建ノ爲メ、産業復興ノ爲ニ大キナ任務ヲバ果シテ來テ居ルカ分ラナイ、是ハ當局モ恐ラク御認メニナラヌ譯ニ行カスト考ヘマス、是等ノ公共事業ノ従業員デアリマスルトカ、特ニ官公吏ト云フヤウナ地位ニアル人々ノ待遇ハ實ニ劣惡極マル狀態デアリマス、簡單ニ仕事ヲ辭メルコトガ出來ナイ、又要求モ簡單ニ出來ナイ敗戦マデハ特ニ凡ユル任務ヲ負ハサレマシテ、何等上ニ向ツテ要求モ何モ出來ナイ立場ニ置カレテ居ルニモ拘ラズ、是等ノ官公吏、従業員ニ對シテ何等其ノ待遇ニ對シテ特別ノ考慮ガ拂ハレテ居ナイ、要求ノ出來ナイノヲ宜イコトニシテ、是等ノ人々ハ特ニ劣惡ナ狀態ニ置カレテ居ル、食ヘナイヤウナ狀態ニ置カレテ居レバ、結局食フ爲ニ何等カノ形ヲ執ツテ其ノ要求ヲ充タサウトスル、其ノ結果結局役人ハ彼得ヤル、或ハ上ニ對スル不平、不滿ヲ民衆ニ向ツテ爆發ヲサス、非常ニ不親切ニナル、横

種ノ左翼分子ガ例ノヤウナ誇張シ

種ノ左翼分子ガ例ノヤウナ誇張シ

種ノ左翼分子ガ例ノヤウナ誇張シ

種ノ左翼分子ガ例ノヤウナ誇張シ

種ノ左翼分子ガ例ノヤウナ誇張シ

柄ニナル、所謂官僚主義ト言ハレ
ルヤウナ傾向ガ非常ニ強クナル、
戦争中ハ特ニ一般ノ批判ガナカ
ツタ爲ニ、ヒドカツタノデアリマ
スガ、終戦後ニ於キマシテモ少シ
モ變ツテ居ナイ、此ノ間ノ本會議
我ガ黨ノ田方君ガ丸龜ノ區裁判所
ノ判事ガ四人ノ米ヲ食ツタト云フ
發言ヲシタノニ對シテ司法大臣ハ
非常ニ司法部ノ威信ノ爲ニ憤慨
サレ、又自由黨ヲ進歩黨ニ於テモ
非常ニ之ヲ問題ニサレマシテ、結
局取消ヲシタノデアリマスガ、其
ノ後共同通信等ノ調査ノ結果ニ依
リマス、決シテ事實無根デハナ
イ、明カニ未決ニ入ツテ居ル人々
ニ對スル配給ノ米ヲ裁判官ガ食ツ
テ居ツタノハ事實デアツテ、外食
券モ何モナシニ配給デナイ物ヲバ
食ツテ居ツタ事實ガ明カニナツテ
居ル、是ハ必ズシモ丸龜ノ區裁判
所ダケニ起ツタ問題デハナイ、曩
ニ大阪ノ裁判所ニ於キマシテ、檢
事ヤ判事ガ横流レノ砂糖ヲバ不正
ナ分配ヲシテ處分ヲ受ケタト云フ
ヤウナ事實モ現ニアル、京都ニ於
キマシテモソレニ似タヤウナ事件
ガ起ツテ居ル、斯ウシテ役得ノ出
來ル者ハ、俸給デ食ヘナケレバ盛
ンニ役得ヲヤル、或ハ從業員ハ、
鐵道ノ從業員ハ荷ノ拔取りヲヤリ
マス、或ハ色々取締ノ相手ニ
對シテ便宜ヲ與ヘテ、收賄ニナラ
ナイヤウナ方法ニ依ツテ「サービ
ス」ヲ受ケルト云フヤウナコトガ

盛ンニ終戦後モ行ハレテ居ル、私
ハ之ヲバ攻撃スル爲ニ言フノデハ
アリマセヌカラ、色々ナ材料ヲ持
ツテ居リマスルガ是レ以上ハ申上
ガマセヌ、斯様ナコトガ此ノ民主
主義化シナケレバナラナイ日本ニ
於キマシテ盛ンニ行ハレテ居ツタ
ノデハドウニモナラヌノデアリマ
シテ、此ノ悲シムベキ狀態ニ對シ
テ目覺メタ官吏ハ從業員ハ、斯
様ノ卑屈ナ生活ヲ打破ツテ、サウ
シテ官公吏トシテ、又重要ナル公
共事業ニ從事シテ居ル勞働者トシ
テノ面目ヲ維持シ、名譽ヲ十分ニ
保持シテ、飽クマデモ其ノ重大ナ
職責ニ挺身スルコトガ出來ルヤウ
ニ最低生活ヲ保障シテ貰フ、斯様
ナ所カラ是等ノ目覺メタ諸君ハ先
ニ立ツテ續々組合ヲ作ツテ要求ヲ
シ、最低生活ヲ確保ノ爲ニ戰ツテ
參ツタノデアリマス、斯ウシテ要
求ヲシ、或ハ爭議ニ一步手前マデ行
カナケレバ少シモ自分等ノ生活ヲ
考ヘテ呉レナイ、現ニ今度ノ通信
從業員職員ノ要求ノ問題ニシテモ
サウデアリ、或ハ都ノ職員、從業
員ノ問題ニ對シマシデモ最近ヤツ
ト解決ガ付キマシタケレドモ、業
務管理デアリマス、或ハ爭議
一步手前マデ行カナケレバ最低生
活ヲ保障スル當然ナ俸給、賃金ノ
引上サヘモシテ貰ヘナイ、斯ウ云
フ狀態ニアル、何等ノ適切ナ、特
別ナ處置モ執ラズニ、對策モ講ゼ
ズニ、唯爭議ダケヲ制限シヨウト

云フノデアリマスカラ、是等ノ組
合ガ猛烈ニ反對スルノハ決シテ無
理デハナイト思ヒマス、若シ今
等ノ正當ナ理由ガ、切實ナ理由ガ
アル反對ヲバ押切ツテ、サウシテ
遮ニ無ニ多數ニ依ツテ此ノ法案ガ
議會ヲ通過シ、制定セラレマシタ
場合ニ、果シテ是等ノ反對ヲシテ
居リマスル勞働組合ニ屬シテ居ル
何百萬ノ勞働者或ハ官公吏ハドウ
云フ感じヲ持ツカ、ソレガ官廳事
務ヤ或ハ此ノ重大ナ、爭議ヲヤツ
テサヘイケナイ公共事業ノ上ニド
レ程惡影響ヲ來スカ、厚生大臣ハ
此ノ點如何ニ御考ヘニナツテ居
ルカ、私ハ是等ノ多クノ官公吏或ハ
從業員ハ日本再建ノ爲ニ必要デア
ツテ「イギリス」ニ戰爭中行ウ
居リマシタヤウニ戰爭中ハ一切
「ストライキ」ヲヤツテハナラヌ
ト云フヤウナ法律ニモ甘ンジテ支
持ヲシタノデアリマス、日本再建
ノ爲ニ本當ニ自分等ガ「ストライ
キ」ヲ止メテ頑張ラナケレバナラ
ヌノデアルト云フコトガ納得サレ
ルナラバ、ドンナ苦痛デモ今日ノ
目覺メタ勞働者ハ甘ンジテソレニ
堪ヘルト思フノデアリマス、然ル
ニ納得セシメズニ彼等ガ重大ナ國
家ノ事務或ハ公共團體ノ仕事ニ働
キナガラ要求シナケレバ最低生活
ノ保障ヲシテ呉レナイ、一方デハ
戰時利得者ヤ有產者ハ贅澤ニ味ヲ
ヤツテ居ル斯ウ云フ者ニ對シテ何
等ノ徹底シテ取締ヲ依然トシテ加

ヘナイ、サウシテ此ノ重要ナ日本
再建ノ爲ノ仕事ニ邁進シテ居ル者
ガ、爭議ニ一步手前マデ頑張ラナケ
レバ最低生活ノ保障ガシテ貰ヘナ
イ、斯様ナコトヲシテ置キナガラ
其ノ爭議ヲ制限スルト云フコトヲ
ヤルナラバ、必ズ之ニ對シテ色々
ナ形ニ於テ反撥ガ起ツテ來ル、是
ハ産業ノ復興ノ上ニモ、或ハ役所
ノ民主化ノ上ニモ、恐ルベキ結果
ヲ來スト私ハ思ヒマス、此ノ點ヲ
先ツ私ハ厚生大臣ガ如何ニ御考ヘ
ニナツテ居ルノカラ承リマシテ、
其ノ上デ更ニ質問ヲ續ケタイト思
ヒマス

○河合國務大臣 只今ノ御質問ノ
要旨ハ、大體官業關係ノ勞働者或
ハ其ノ他ノ職員等ガ、此ノ法案ノ
内容自體ニハ反對デハナイケレド
モ、先ツ其ノ待遇ヲ良クシナケレ
バイカスト云フ大體ノ御趣旨ト拜
承致シマスガ、官公吏ノ待遇ヲ良
クシナクチャナラヌト云フ點ニ付
テハ全ク御同感デゴザイマス、此
ノ間モ御承知ノ通り大分上リマシ
テ、ソレデ通信省ナリ鐵道關係ノ
爭議ガ未然ニ防止サレタト云フコ
トハ、是ハ既ニ御承知ノコトト思
ヒマスガ、此ノ上トモ何トカモウ
少シ致サナクチャナラヌノデヤナ
イカト云フ氣持ハ持ツテ居リマス
ケレドモ、國家財政ノ現狀モ斯ウ
云フコトデゴザイマス、事實問
題トシテ非常ニ政府モ困却シテ居
ル次第デアリマス、大體此ノ官吏
ノ俸給ナリ或ハ官業從事者ノ俸給
ト云フモノハ、是ハ「インフレ」
シヨシヨシ「デフレ」シヨシヨシノ關
係ト非常ニ關係ノ深いモノデアリ
マシテ、昔或ル時代ニハ官吏ト云
フモノノ俸給ハ何ヨリモ結構ダ、
官吏ト云フモノハ宜イモノデヤナ
イカト云フ時代モアリマシタ、所
ガ「インフレ」ニナツテ來マスト
事業界ハ收入ガ殖エマスケレド
モ、役所ノ收入ハ中々殖エマセヌ
公共事業ト云フモノハ中々大衆ニ
關係ガアルノデ、例ヘバ「ニュー
ヨーク」ノ地下鐵ノ如キハ、迎モ
繼續ガ困難ダカラ政府ガヤツタ
云フノデ、中々公共事業ト云フモ
ノハヤリ切レヌ、斯ウ云フ關係デ
政府ノ收入ト云フモノハ「インフ
レ」ノ波ガ來ル時ニハ何時デモ遅
レル「バス」ニ乗遅レルト云フヤ
ウナ傾向ガ顯著デアル、其ノ代リ
「デフレ」ニナリマシテモ、官公
吏ヲ能率本位デドンノ落シテ行
クト云フヤウナコトハナイ「デ
フレ」ニナルト何トカ宜イ隠レ場
所ニナルト云フ時代ノ來タコトモ
アリマシテ、中々「インフレ」デ
フレノ波ト、官公吏ノ收入ト云
フモノハ、實業界一般ノヤウニハ
反映シテ來ナイノデアリマス、是
ハ物ノ本質カラ來テ居ル問題デア
リマス、又日本ノ官僚制度カラ來
テ居ル點デアリマス、併シナガラ
斯ウ云フコトガアルカラウツチヤ
ツテ置イテ宜イト云フコトハナ

イ、斯ウ云フコトガアレバコソ尙ホ注意シナケレバナラヌト云フ議論ニモナル譯デゴザイマス、此ノ間モ申上ゲマシタヤウニ、精々今後モ注意シテ行カナクチャナラヌト思ヒマス

○辻井委員 厚生大臣ノ今ノ御答辯ニ依リマス、今ノ御意見ハ、全クハ資本主義ノ平和ナ状態ノ御考ヘデアリマシテ、滿洲事變マデノ時代デアリマスナラバ、好況ノ後ニハ悲況ガ襲ウテ來ル、ソコヲ頭張レバ又景氣ガ良クナル、斯ウ云フヤウナ時代デアルナラバ何年間カ平均スレバ出入ガナイト云フコトニナルデアリマスガ、現在ハ所謂資本主義ガ没落期ニ入り所謂帝國主義ノ段階ニ入ッテ、アノ恐ロシイ戰爭ガ起ツタ位デアリマス、從來ノ自由主義的ナ資本主義ノ状態デハドウニモナラヌト云フコトハモウ既ニ今日ノ常識デアルト思ヒマス、滿洲事變以來物價ハ上ルベカリデ下ツタ例シガナイ、サウ云フ時代ガ二十年モ續イテ居ル、滿洲事變前ニ生レタ者ガ今日モウ役所ニ入ッテ雇ナドデ勤リノ平均デ我慢シナケレバナラヌト云フヤウナ御考ヘニ對シテハ、恐ラク全國ノ勞働者ハ言フマデモナク、政府ノ官吏ノ中ニモ大ナル不満ヲ持ツ者ガ多イト申サザラ得ナイデアリマス、サウ云フ生易シイ時代デハナイデアリデマ

ス、今日「インフレ」ニ對シテ徹底的ナル處置ガ執ラレヌ限り、幾ラデモ物價ハ上ツテ行ケ、政府自身ガ鐵道料金ヲ引上ゲ、或ハ郵便料金ヤ煙草代ヲ次カラ次ト御上ゲニナツテ居ル、斯ウシテ政府自身ガ惡性「インフレ」ヲ次カラ次ヘ助長サレナケレバナラナイ時代デゴザイマス、斯ウ云フ際、平均シテ考ヘタナラバナドト云フノハ、全ク時代ヲ超越シタ考ヘデゴザイマス、今日ノヤウナ事態ニ於テハ家族一人デハ最低生活ヲ維持スルノ一箇月幾ラ必要デアルカ、何人殖エル毎ニドレダケナケレバナナイカト云フヤウナコトヲ綜合的ニ、合理的ニ研究シ、配給ダケデハ足ラヌ、又配給ガ止マルカラ闇デ補ハナケレバナラヌノデ、闇物價ト云フモノモ十分調査スル、又一方ニ於テハ必要ナ最低限ノ「カローリ」ノ調査モスル、サウシテ、前ニ最低賃金ノ制定ニ付テ質問シタ時ニハ、直グニハ出來ナイト云フヤウナ御答辯デアツタト

思ヒマスガ、斯様ニ經濟情勢ガ非常ニ不安定ナ場合ニハ最低賃金ヲ決メルコトガ困難デアルトスル最ナラバ、絶エズ其ノ時ノ最低生活費ヲ十分調査ト根據ノ上ニ立ツテ調査スルト云フ、サフ云フ機關ヲ設ケル、又勞働組合モ作レナイ「ストライキ」モヤレナイヤウナ警察官デアルトカ、消防、刑務所ノ官吏ニ對シマシテハ、民主

的ニ、政府ト是等ノ立場ニ居ル官吏トノ間デ俸給、待遇ノ問題ニ付テ常ニ折衝ヲシテ、合理的ニソレヲ是正シテ行クヤウナ機關位ハドウシテモ作ルベキデアルト私ハ思フ、斯様ナ十分民主的ナ對策モ講ゼズニ唯制限ヲスルノハ怪シカラヌト云フノデアリマス

ソレカラモウ一ツ御斷リ申上ゲテ置キマスガ、内容のニハ反對デハナイカト云フノデアリマス、内容ニ對スル賛成、反對ハ第二トシテ、先ヅ提案ノ仕方ガ怪シカラヌ十分準備モ、又適切ナ施設モ設ケズシテ唯制限スルト云フヤウナ法案ヲ眞先ニ出シタノガ怪シカラヌト云フノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付テ今後十分考慮スルト云フ、天降的のニ考慮サレダケデハ碌ナコトガ今日マデ出來ナカツタシ、將來モ出來ヨウトハ思ハヌノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付テ何カ適切ナ御考ヘガアレバ伺ヒタイト思ヒマス

願ヒマス

○河合國務大臣 只今斯ウ云フ問題ニ對シテ出來ルダケ民主的ナ方法ヲ執ツタラ宜カラウト云フ御趣旨デゴザイマスカラ、出來ルダケサウ云フ點ニ付テ考ヘマス、ソレカラ、先程私カラ「インフレ」デ「フレ」ノコトヲ、申上ゲタノハ、サウ云フ傾向モ今マデアツタカラ特ニ政府ハサウ云フ問題ニ付テ注意シテ行カナケレバナラヌノダト云フコトヲ申シタコトト御諒承ラ

○辻井委員 內務大臣ガ今才見エニナリマシタカラ多少重複スルカト思ヒマスガ、內務大臣ニ御伺ヒシタイト思ヒマス、今度ノ調整法案ニ依リマスルト、刑務所ハ司法關係デアリマスカラ別トシテ、警察官或ハ消防官ハ組合ヲ作レナイ、サウシテ勿論「ストライキ」モ出來ナイ譯ナノデアリマスガ、斯ウ云フ制限ヲ受ケル以上ハ、要求シナクテモ最低生活ノ保障ノ出來ルヤウナ適切ナ方法、或ハ施設ヲ設ケナケレバナラヌノデアアルガ今日マデハ要求ノナイモノハ少シモ願ミラレナカツタ、是ハ京都ニ於キマシテモ、私自身ガ直接承知シテ居ル事實デアリマス、本年ノ初頭ニ物價ノ暴騰ノ爲ニ俸給ダケデハ——京都府ダケデハ勿論アリマセヌガ、京都府ニ於テモ警察官ガドウニモナラナイ、政府ヘ幾ラ折衝シテモ埒ガ開カナイ、毎日ノ生活ヲ愚圖々々シテ居ル譯ニ行カナイト云フノデ、京都府ノ警察部ニ於キマシテハ、警察毎ニ管内ノ所謂有力者ニ集マツテ貰ツテ、サウシテ警察官ノ生活保護ニ協力ヲ求メ、サウシテ管内ノ所謂有力者ノ相當ノ額ノ寄附ヲ得テ二箇月分ノ生活ノ援助ヲ行ウタト云フ例ガアルノデアリマス、斯様ニ今日敗戦デ混亂シテ居ル時代ニ相當警察ニ纏ツタ寄附ノ出來ルヤウナ者ハ、一概ニモ言ヘナイケレドモ多

クハ所謂戰爭成金カ、サウデナケレバ聞「ブローカー」デ儲ケテ居ルト云フ者ガ多イデアリマス、又サウシテ輕ニ傷ヲ持ツテ居ルヤウナ者ガ進ンデ纏ツタ寄附ヲスルノデアリマス、斯ウ云フ寄附ヲ警察官ノ生活保護ノ爲ニ貰ツテ居レバ知ラズ識ラズノ間ニ取締ノ上ニモ良イ影響ハ來サナイノハ理ノ當然デアリマス、斯ウ云フ状態ニ警察官ガ今日マデ置カレテ來テ居ル、又一般ニ官吏ノ待遇ガ惡イ爲ニ、此ノ間モ地方事務所ノ廢止ヲスル方ガ宜カラウト云フヤウナ御意見ガ出テ居リマシタガ、全ク地方事務所ニハ甚シイ弊害ガ伴ツテ居ル、府縣ノ役人ガ物資ヲ調達スル爲ニ地方事務所ガ相當利用セラレテ居ル、斯ウシテ取締リ立場ニアル者ガ食ツテ行ケナケレバ結局其ノ職權ヲ笠ニ着テ色々民衆ヲ苦シメテ面白クナイコトヲヤル、ト云ウデモ私ハソレヲ咎メルノデハナイ、是ハ已ムヲ得ヌ結果デアリマス、斯ウ云フ要求モ出來ナイ者ニハ、要求シナクテモ、或ハ爭議ヲヤラナクテモ、最低生活ノ保障ガモウ自動的ニ行ハレテ行クヤウナ十分民主的ナ施設ト云フヤウナモノデモナケレバ、結局食ツテ行ケナケレバ斯ウ云フコトガ盛ンニ行ハレテ來マス、綱紀ノ肅正モ何モアツタモノデハナクナルノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付テ內務大臣ハドウ云フヤウニ御考ヘニナツ

テ居ルカ、一應内相ノ御意見ヲ承
リタイト思ヒマス

○邊澤委員長 一寸辻井サンニ御
相談申上ゲマスガ、今厚生大臣ヲ
憲法委員會ノ方デ五分カ十分カ借
リタイト云フ話ガアルノデスガ、
内務大臣ノ御答辭中ニドウデセウ
カ

○辻井委員 結構デス

○大村國務大臣 只今御尋ネニナ
リマシテ御趣旨ニ對シマシテハ私
ハ全然同感ノ意ヲ表スル者デアリ
マス、警察官ノ職務ニ鑑ミマシ
テ、勞働運動、勞働爭議ニ付テ極
端ナル制限ヲ受ケルコトハ其ノ職
責上已ムヲ得ザルコトデアリマ
ス、サリナガラ、ソレヲ宜イコト
ニシテ警察官ノ待遇ヲ改善スルコ
トニ遺憾ナ點ガアリマシテハ絶對
ニ相成ラヌコトダト考ヘルノデア
リマス、今後此ノ勞働組合調整法
ガ成立シテ運用サレルト云フヤウ
ナストニナリマシタナラバ、警察
官ノ職務ニ鑑ミマシテ十分ナル待
遇ヲスルト云フコトニ政府トシテ
大イニ配意スル積リデ居リマス、
段々御引例ニナリマシタ點ニ付キ
マシテハ是亦全面的ニ承認ヲ致ス
モノデアリマス、御承知ノ如ク、
終戦後我が國ノ經濟情勢ガ急激ニ
變化シテ參リマシテ、政府カラ給
與ヲ實ツテ居リマスル一般職員ノ
生活ヲ脅威シタコトハ、單ニ警察
官ト申サズ一般職員ニ通ジテノ問
題デゴザイマスガ、殊ニ警察官ハ

私共ノ見ル所ト致シマシテハ、一
般職員ニ比シマシテ從來ノ待遇ハ
寧ロ低カッタト思フノデアリマ
ス、其ノ結果警察官ハ、經濟界ノ
變動ニ依リマシテ非常ナ生活上ノ
窮境ニ陥レラレタ、ソレニ對處ス
ル爲ニ、殊ニ大都市ニ於キマシテ
ハ生活ノ窮迫ガ顯著デアリマスノ
デ、京都其ノ他ニ於キマシテ機宜
ノ措置ヲ講ジタコトモハ報告ヲ
受ケテ居リマス、サウシテ之ニ付
キマシテハ、警察部ニ對スル寄附
金ニ依リテ一時ヲ糊塗スルト云フ
ヤウナ策モ用ヒラレタノデアリマ
スガ、警察官ノ特質ニ鑑ミマシテ
其ノヤウナコトデ解決ヲ致シマス
コトニ付テハ確力ニ弊害モ伴フコ
トデアリマシテ、警察官附ノ如キ
ハ出來ルダケ避ケナケレバナラヌ
ト云フコトデ進ンデ來テ居ルノデ
アリマスガ、併シテノ際ノ急場ヲ
凌グ爲ニハ之ヲ承認スルヲ得ザル
事情ニアツタモノト思フノデアリ
マス、警察官ノ優遇ハ焦眉ノ急務
デアリマスガ、政府カラ給與ヲ受
ケテ居リマスル一般職員ニ共通シ
タル優遇問題ガアリマス時期ニ於
キマシテ、警察官獨リ特殊ナ優遇
ヲスルト云フコトモ實際問題トシ
テ實行難デアリマス、幸ヒニ政府
ニ於キマシテハ、此ノ現狀ヲ直視
致シマシテ、政府ノ給與ヲ受ケテ
居ル一般職員ニ對シテ、兎モ角モ
生活ノ安定ヲ與ヘルト云フ點ニ着
眼致シマシテ、給與ノ改善ガ進行

致シテ居リマス、不日其ノ實施ヲ
見ルコトト思フノデアリマス、ソ
レニ依リマシテ警察官ハ一應ノ安
定ヲ得ルコトト思フノデアリマ
ス、併シ先程來申上ゲマスヤウ
ニ、警察官ノ待遇ハ一般職員ニ對
シマシテ比較的低位ニアルト云フ
コトハ廣ク承認セラレテ居ル所デ
モアリマスノデ、是マデニ於キマ
シテモ出來ルダケ努力ハ致シテ居
ルノデアリマス、現ニ本年度ニ於
キマシテハ、極メテ少額デハアリ
マスルガ本俸ヲ増給スルト云フ點
ニ於キマシテ、政府財政ノ許ス限
度ニ於キマシテ、年額一千五百萬
圓ダケヲ下級警察官ノ本俸ノ増額
ニ特ニ振向ケルト云フ豫算ニ相成
ツテ居リマス、是ハ他ノ一般職員
ニ對シマシテ特別ノ例外的扱ヒニ
ナツテ居ルノデアリマシテ、金額
ニ致シマス、下級警察官ニ於テ
本俸ガ十圓餘リ位シカ上ラナイコ
トデアリマスケレドモ、併シ特別
ノ措置ト云フ點ニ付キマシテ、警
察官一般ニ非常ニ喜バレテ居ルヤ
ウナ次第デアリマス、尙ホ此ノ警
察官ノ地位ニ鑑ミマシテ、殊ニ勞
働組合調整法等ニ依リマシテ、彼
等ノ生活ヲ自力デ擁護スルト云フ
コトヲ制限サレテ居ル點ニ付キマ
シテハ深甚ノ注意ヲ拂ヒマシテ更
ニ此ノ警察官ノ優遇ニ付キマシテ
ハ私共努力致シマシテ、制限ヲサ
レテ居ルカラ其ノ爲ニ生活上特別
ノ待遇ヲ受ケルト云フコトノナイ

ヤウニ、之ヲ確保スルコトニ努力
スル積リデアリマス、尙ホ只今ノ
所ト致シマシテ警察官ノ地位ノ特
殊性ニ鑑ミマシテ、職務ノ重大性
ニ應ジタル危險手当云フヤウナ
モノモ別途ニ考慮スルト云フヤウ
ナコトヲ考ヘテ居リマス、政府財
政ノ都合モアルコトデアリマシテ
其ノ成果ヲ得マス點ニ付テハ直チ
ニ茲ニハツキリ申上ゲルコトガ出
來マセヌガ、其ノヤウナ警察官ノ
特殊性ニ鑑ミマシテ、適切ナル給
與ノ増額モ今後ニ於テ實現ヲサセ
タイト云フヤウニ考ヘテ居ル次第
デアリマス

○辻井委員

只今警察官ニ對スル
待遇ニ付テ色々御考慮ニナツテ居
ルコトハ承ツタノデアリマスル
ガ、私ノ御尋ネシタイト思フノハ
今後モ斯ウ云フ經濟情勢ガ續キマ
スル以上ハ生活費ハ昂騰スルノデ
ハナイカト思ハレマス、左様ナ場
合ニ、又ソレダケデハナシニ色々
待遇ノ改善、豫算ヲ伴フヤウナモ
ノモ少クナイト思ヒマス、ヤリ方
次第デ豫算ヲ伴ハズシテ下級ノ警
察官ガ満足ヲスル、サウシテ張切
ツテ職務ニ努力ヲスルヤウニナル
ト云フヤウナ行キ方ガ少クナイト
思ヒマス、斯様ナ點ニ付テ、勞働
組合ヲ作り、或ハ「ストライキ」
ガ出來ナイノナラバソレニ代ル、
一般ノ下ノ意思ヲ上ニ反映セシメ
テ常ニ民主的ニ待遇給與ノ問題

ニ付テ適切ナル措置ヲ執ツテ行ク
機關ト言ヒマスルカ、施設ト申
シマスルカ、サウ云フヤウナモノ
ニ付テ何等御考慮ガナイカドウ
カ、之ヲ御尋ネシタイノデアリマ
ス

○大村國務大臣

洵ニ御尤モナ御
尋ネデゴザイマスガ、現在警察官
ニ於キマシテハ共濟組合ト云フモ
ノヲ多年運用シテ來テ居リマスガ
是ガ實際ノ活動ニ付キマシテハ時
局下サラニ新シキ方法ヲ考ヘテ適
切ナル活動ヲサセル必要ガアルコ
トヲ痛感シテ居リマス、尙ホ又從
來ノ共濟組合ノ運営ニ付キマシテ
ハ、之ヲ民主化スル上ニ於キマシ
テ改善ヲ要スル點ガアルト考ヘテ
居マス、此ノ既存ノ共濟組合ヲ機
構的ニモ之ヲ改善シ、又ソレヲ事
業的ニモ十分ナル活動ヲサセルト
云フコトニ依リマシテ、只今御尋
ネノ趣旨ヲ出來ルダケ宜ク實現サ
セルト云フコトニ致シタイト考ヘ
テ居リマス

○辻井委員

最後ニ厚生大臣ニ御
伺ヒシタイト思フノデアリマス、
今厚生大臣竝ニ内務大臣ニ爭議ノ
制限ヲ受ケル、或ハ勞働組合ニ參
加ガ出來ナイト云フ立場ニアル者
ニ對シテ、要求ヲシナクテモ十分
ニソレ等ノ人々ノ意思ガ反映シ、
サウシテ進ンデ最低生活ノ保障ニ
付テハ措置ヲ執ルト云フヤウナ何
等カノ機關ノヤウナモノニ付テノ

具體的ナモノヲ御考ヘニナツテ居ルカドウカヲ御尋ネシマシタガ、サウ云フモノハマダ何等具體的ニ御考ヘニナツテ居ナイ、要スルニ組合ニ入ルコトヲ禁止シ或ハ爭議ヲ制限スルダケデアリマシテ、ソレニ代ル是等ノ人々ヲ納得セシムルヤウナ對策ガ何等執ラレテ居ナイ、又一方デハ、一般ノ勞働者ニ取リマシテハ「ストライキ」ハ現在事實上行ヘナイ、又行フベキデモナイ、斯ウ云フ情勢下ニ要求ヲ通ス爭議手段トシテハ生産管理ヨリ外ニナイノデアリマシテ、日本ノ斯様な特殊ナ經濟情勢ガ生産管理ト云フ爭議形態ヲ生ミ出シタ、大シタ弊害モナシニ——一部ニハ行過ギノアルコトモ初メハ認メラレマシタガ、段々ソレモ改メラレマシテ、ソレガ「ストライキ」ニ代ル合法的ナ爭議手段トシテ、勞働者ノ爲ノ唯一ノ武器トナツテ居ルソレスラモ非合法デアルト云フヤウナ聲明ヲセラレテ居ル、勞働者側カラ見マスナラバ——勞働組合側カラ見マスナラバ、明カニ是ハ所謂保守勢力ノ反動攻勢デアルト云フヤウニ考ヘルノモ私ハ決シテ無理デハナイト思フノデアリマス、前ニ本會議デ幣原國務大臣ハ自分ハ勞働組合法ヲ制定シ、或ハ憲法ノ改正案ヲ作り、着々ヤツテ來タノダト云フヤウナ御話ガアツタガ、一般ノ勤勞大衆ハ是ハ所謂「ボツダム」宣言ニ對スル義務ノ

履行トシテ司令部ノ壓力ノ爲ニヒムヲ得ズヤツテ來タノデアアル、ソレヲバ食糧「メーデー」以來ノ司令部ノ聲明ニ便乗シテ、愈々反動攻勢ニ出テ來タノデアルト云フ見方ヲ勤勞階級ノ多クハシテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ場合ニ遮二無二斯様なモノヲバ——今私ガ御聽キシテモ、何等納得ノ行クヤウナ之ニ對スル對策モ何モナシニ之ヲバ御通シニナリマシタ場合ニ、今大イニ自分等ガ頑張ツテ一ツデモ多ク物ヲ造リ、産業復興ノ爲ニ或ハ行政事務ノ能率ヲ上ゲル爲ニ頑張ラナクチャナラヌト云フノデ勞働組合ヲ作り、張切ツテ勤勞意慾或ハ生産意慾ヲ發揮シテヤツテ居ル是等ノ勞働組合或ハ職員組合ニ屬シテ居リマス者ガ、ドレ程出鼻ヲ挫カレ、サウシテサウ云フ精神ヲバ傷ケラレルカ分ラナイ、是ハ日本再建、産業復興ノ上ニ非常ニ私ハ恐シイ惡影響ヲ來スト思フノデアリマス、サウ云フ點ニ付テサウ云フコトデナシニヤツテ行ケルト云フヤウナ自信ガ厚生大臣ニオアリニナルカドウカ、私ハ最後ニ厚生大臣或ハ政府當局ガ、勞働階級ノ多數ガ猛烈ニ反對シテ居ルノヲ十分ニ納得セシメルコトモ出來ズシテ、之ヲ遮二無二御通シニナツタ場合ノ反動ト言ヒマスカ反撥ト言ヒマスカ、勤勞階級ノ恐シイ結果ニ對シテ、果シテ十分ニサウ云フコトナシニヤツテ行ケル

ト云フ自信ヲ御持チニナツテ居ルカドウカ、私ハ必ズ是ハ恐ルベキ反撥ヲ生ジテ來ル、非常ナ支障ヲ日本再建ノ上ニ來スト考ヘルノデアリマス、果シテ其ノ點ニ十分ナ御自信ヲ御持チニナツテ居ルカドウカ、最後ニ此ノ一點ヲ御聽キシタイノデアリマス

○河合國務大臣 此ノ法規ハ決シテ反動的ノモノトハ考ヘマセヌ、是ハ調停トカ仲裁トカラヤル手續ノコトト、ソレカラ公益擁護ノ爲ニドウシテモ必要ナ制限、例ヘバ省線ノ安全運轉ノヤウナコトヲヤラレテハ困ルト云フコトカラ來テ居ルノデアリマシテ、是ハ國民大衆ガ支持シテ呉レテ居ルト思フノデアリマス、ソレデ若シサウ云フコトニナツテ面倒ダト云フコトダト、出來ルダケ御盡力ヲ願ツテ、國家再建ノ爲ニ國民全體ガ一緒ニヤツテ欲シイト云フ氣持デ居リマス、私ニ確信ガアルカト云フ御話デゴザイマスガ、人間ノコトデスカラ、出來ルダケノコトヲヤル、巧ク行クト思ツテ居リマス

○蓬澤委員長 ソレデハ本日ハ之ヲ以テ散會致シマス

午後零時五分散會

勞働關係調整法案委員會要求參考資料

一、英、米、ソ等の國々に於ける官公吏の待遇に關するもの

二、各國の勞働組合法規

- 三、日本勞働組合法及び調停法に關するもの
- 四、全國爭議件數
- 五、從業生産管理件數
- 六、全國賃金値上、生産の比較

昭和二十一年八月四日印刷

昭和二十一年八月五日發行

衆議院事務局

印刷者 印刷局